

F SSH 普及事業

1 課題研究教員研修会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究の指導法を公開することで、課題研究を地域に普及させる。また、教員間で課題研究の効果的な指導法について考え議論することで、指導の改善を目指す。

(2) 研究開発の経緯

平成 25 年度に重点事業「理科課題研究を推進する教育ネットワークの構築」が採択されてから、毎年教員研修会を行ってきた。県内で課題研究を実施している学校は十分に多くはない。その理由はいくつか考えられるが、昨年度の教員研修会の参加者アンケートでは、課題研究や探究活動において教員の効果的な声掛けの仕方がわからないとの意見が多くあげられたことから、それら課題研究の指導のノウハウを普及することが効果的だと考え、今年度はファシリテーションをテーマに実施することにした。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

研修会では、本校の 3 年の「SSH課題研究」の授業見学後に、京都教育大学の村上先生から「新しい時代における教師力」のすがたについての講演をいただいた。その後の実習ではグループ活動において、生徒一人ひとりの探究力の向上を図るためのグループ分けである MI の体験や科学的な探究活動「紙コップの不思議」の体験を実際に参加した先生方に行ってもらい、指導のノウハウを体験を通して学んでもらうことができた。

イ 連携先

京都教育大学教教育学部 教授 村上 忠幸 先生
愛知県総合教育センター 指導主事 久保 優一 先生
指導主事 伊藤 卓哉 先生

ウ 参加者 34 名

エ 実施日 令和 3 年 6 月 15 日（火）

オ 検証（成果と反省）

○ 課題研究教員研修会の当日プログラム

10:10～10:30 受付

10:30～11:00 概要説明

11:10～12:15 「SSH課題研究」の授業参観

昼食

13:20～13:50 新しい時代における教師力 講演

13:50～14:20 MI（多重知能理論）の体験・実習

14:20～15:30 「紙コップの不思議」の体験・実習

15:30～16:00 省察（デボノの帽子）講演

16:00～16:20 閉会、アンケート記入



講演会の様子

感想

- ・ 探究のトライ&エラーが体験できてとても勉強になりました。
- ・ 省察について初めて知りました。学校に持ち帰って活用したいです。
- ・ 「経験から学ぶ」というキーワードが今後の授業を計画する上でのポイントになることを感じました。
- ・ メタ認知のような振り返りの重要性に気づけたので、活動とともにこれから考えていきたいです。
- ・ 省察が大事であることが学べた。
- ・ 協働作業、仮説をどう立てるか、その検証について考えることの大切さを改めて気づけて良かった。
- ・ メタ認知能力を育てる必要性や生徒、学ぶ人にとって「なぜ」という心が学習の原動力になるのだと痛感しました。自分の授業に生かしていきたいです。

自由記述のアンケートから多くの参加者に、生徒たちの主体性を引き出す課題研究や探究実験の有効性を感じてもらえたと言える。また本校で行われている MI による班分けや探究活動である「紙コップの不思議」の体験においても、今後活用したいとの感想が多く挙がっていた。